

# 経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和6年4月18日（木）午前8時59分～午後3時44分（9階909会議室）

## ○出席委員（9名）

委員長	根本 雅昭
副委員長	二階堂利枝
委員	七島 奈緒
委員	佐原 真紀
委員	白川 敏明
委員	後藤 善次
委員	村山 国子
委員	羽田 房男
委員	真田 広志

## ○欠席委員（なし）

## ○市長等部局出席者（なし）

## ○案 件

所管事務調査「持続可能な農業の振興に関する調査」

- 1 現地調査（場所：東部地区農園→北信地区農園→吾妻地区農園）
- 2 意見開陳
- 3 参考人招致について

---

午前8時59分 開 議

（根本雅昭委員長）それでは、おはようございます。ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

持続可能な農業の振興に関する調査を議題といたします。

初めに、現地調査についてを議題といたします。

行程に基づきまして現地調査を本日行いますので、ここで委員会を暫時休憩し、早速出発いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、休憩いたします。

午前9時00分 休 憩

---

午後3時18分 再 開

**(根本雅昭委員長)** 委員会を再開します。

お疲れさまでございました。

それでは、本日の現地調査について意見開陳を行います。

本日視察した内容及び聴取した説明に関して順にまずお伺いしたいと思いますので、白川委員からよろしくお願ひできればと思います。

**(白川敏明委員)** 持続可能な農業ということで、一番に思ったのは、担い手不足の解消が一番なのかなと思いました。そのためにやっぱりスマート農業というのがキーワードになると思うし、そしてあとは農業する上では新しい品種を、よりよい品種を早く開発するという、あとは整備に対する投資、これもかなり個々の農家にとっては重要なことだと思うのですが、今本市においても新規就農者や何かに対する補助は確かにありますけれども、今やっている農家に対してもそれなりのそういう感じの補助があっても、つまりバランスよい補助があってもいいのかなと、こういうふうを感じたところで、いろんな予算や何かもありますけれども、それが重要なことではないかなと、こう思いました。確かに今日は立派なところというか、それなりにちゃんとしているところだったので、継続するためにはやはりそのようなことが大切なのかなと、こう思いました。

以上です。

**(七島奈緒委員)** 僕が感じたところは、皆さんの話を聞いていたら、作っているものに物すごく自分のおいしいものをおいしいまま届けたいという気持ちを感じました。自信があると思っているなと思ったのですが、最後に食べていただく方々に一番おいしい状態で届けられるような流通の方法だったりとか、キュウリの選別も含めてですけれども、おいしいものをおいしいまま届けられることの大切さと、スマート農業も含めた、減価償却は難しいかと思うのですが、投資をして、どのぐらい回収ができるかって、補助金が少なくて皆さんおっしゃっていたので、どのぐらいお金をかけるとどのぐらい返ってくるか、そして損をしないような投資の方法ができればもっと拡充していけるのかなと思いました。

**(後藤善次委員)** まず、鎌田、梅宮さんのキュウリですけれども、今日見た中では野菜はここだけで、野菜は新しいものに何か転嫁をするというよりは、既存で行われているものに対しての価格が上がってきている経費、これに対してどういうふうに対応していくかというのを苦労されているのを印象に受けました。

それから、片平さんについては年齢が若いということがあって、新しいものに挑戦をしていこうという、やはり年齢というのはあるのかなと。それから、ブランド品、最後の佐藤さんもそうですけれ

ども、味で勝負をするための環境づくりというのがあるのかなど。露地物よりはハウスで育てることによって管理をスマート化しやすいという状況、シャインマスカットについては屋根をかけてもう少しスマート化ができる果物の種類なのかなど。それから自然を相手にする既存のナシについてもモモについてもやはりハウス化できない部分、スマート化することの難しさというのを感じました。

それから、一番最後の佐藤さんについては、新しいものに挑戦するためにはやはり設備投資が必要になってくると。ただ、設備投資をすることによって若い方たちが農業に進出してやってみたいというような、そういう環境にはなっていくのかなという気はしました。

以上です。

**(村山国子委員)** 午後からと一番最初のキュウリ農家の梅宮さん皆さんが物価高騰でと言っていて、この写真にも高というのは物価高騰の高なのかなと思いながら見ていたのですけれども、そういう対応が、市の補助としても去年あたりはやったとしても、今年はあるやらないかなんて思いながら聞いていました。ただ、皆さんやっぱり持続的な農業を考えているなというふうに思いました。

機械化については、お金がかかって、やっぱりある人とない人の格差が出てしまうのではないかなというふうに感じました。

佐藤さんだったかな、父親が亡くなって、後を継いでも新規就農者という扱いではないのですよね。だから、自分として新しくやったとしても新規就農者みたいな補助金が出てこないというのがあるので、そこら辺は柔軟に該当させて、新しく農業をやるのだという扱いにしてもいいのではないかなんていうふうに思いました。

苗だったり、新商品の開発だったり、県がメインでやっているのかなんて思うのですけれども、やっぱりここら辺りにも福島市も携わって、ブランド化というのについて全県、全市挙げて取り組んでいく必要があるなというふうに思いました。

あと、キュウリに関して一番感じたのが、A級品からB、Cって来て、あと太いのとか規格外みたいなのがあったのですけれども、やっぱり消費者の意識というのを変えていく必要があるのではないかなというふうに切実に思いました。

本当に皆さん頑張っているのには感動しまして、新しい取組をやって農業を続けているということにはすごく感激しました。

以上です。

**(佐原真紀委員)** 私も皆さんの取組を実際に見させていただいて、想像以上にいろんな最新のスマート農業とも言われる設備がしっかりしていることにびっくりしました。福島市でも、やっぱり何の野菜や果物を作るにしても、年間を通じて収入を確保し続けるとか、仕事を1年間に集中し過ぎないようにずっと仕事をし続けるには、ハウス栽培とかももう少し取り入れつつ、新規で就農し始める方たちを増やしていけたらなというふうに感じました。草刈りのIT化など、本来人間が絶対にやらなければいけない部分ではないところは、これからもどんどん任せていければいいなと感じました。

以上です。

**(羽田房男委員)** お三方いろいろご説明もいただいて、視察もさせていただいて、やはり一つには設備投資に対する課題というものはあるのではないのかなというふうに思っています。何をするのにも結局経費がかかる。梅宮さんでいえば、重油代がかなり高額になって、それをどういうふうに収入ということで確保するのかという、そういう課題があったり、またJAですかね、行ったときに5キロ入りで手数料が170円かかるということになると、手は空いたのだけれども、その分収入が減ってしまう、そういう循環というものが相変わらず第1次産業にはあるのかなというふうに感じたところです。そもそも日本の農業というのは、大型化ではなくて、小さな農地で多種多様な作物を生産しながら今まで来たわけですけども、そういうものを根底から変えていかないと、最後の佐藤さんのナシの畑なんかもそうですけれども、そういうことの方角に行かないのではないのかなというふうに感じたところです。

下飯坂の片平さんのところでは、丹精込めて作ったものが非常に生産者は悩んでいるというよりも、生産者が置き去りになっていて、やはり物流、生産を、JAさんだとか行政がもっと手を差し伸べて、こうすることで東京圏に物流で具体的に施策を検討しているので、どうかおいしいものを作って、提供して、販売をできるように生産を一生懸命やってくださいというふうに安心できるようなところを、分担してJAさんだったり行政なんかもそういうところに焦点を向けていかないと、なかなか長続きというのはしないのかなんていうことも感じました。

最後の佐藤さんですけども、5年目の農業の経験ということですけども、今のAIだったりとか様々なスマート農業というものを利活用しながら、大変あのハウスでも3,500万円ほどかかったというふうにおっしゃっておいまして、あとは神奈川県の特許を取得して活用するにも三十数万円かかった。1回で済むのですというようなお話だったのでですけども、ただ救いは佐藤さんのところでいえば、息子さんとか、あとは息子さんの友達かな、そういうところがお互いにいいところを学んで、そして生産、農業を継続できるような条件、非常に失礼な言い方ですけども、恵まれているのかなというふうに非常に感じたところです。ですから、生産者がきちっと生産したものを販売可能なようにするために、私たち行政だったりJAさんという、そういう機関がきちんと任務分担をしながらやっていくことが私たちの課題にもなるのかなというふうに感じたところです。

以上です。

**(真田広志委員)** まず、梅宮さん、キュウリだけでも、基本的に県の産地生産力強化の補助はもらっているのだけれども、3分の1ですか。市からは特にそういった補助というのは出てなくて、伊達とかに比べて非常に補助のメニューが少ないのだという話、これよく聞く話なのだけれども、なぜなのかなというところが鍵で、果樹とかに関しては相当いろんな補助メニューがあるのだけれども、野菜に関しての補助が少ないのかなという、そういった感想を得たところです。そういったところもしっかり行政としては取り組んでいく必要がある。それに比べて補助の話、マスカットなんかに関し

ても、前から取り組んでいるところに対しては補助がないのだよね。新規就農者には補助が出る。そうすると、どこまで価格に転嫁できるかといったときに、どうしてもやっぱり兼業の方だったり、新規就農の方々がその分安く価格を抑えてきたときに勝負をなかなかできないよねと、そういった部分も出てくるので、マスカットはここではないか。ごめんなさい。間違ってしまった。これは片平さんのほうですね。ごめんなさい。そんな話。同じ補助の話でいうとそういったところが大きな課題なのかなと。

それから、片平さん、ゆうやけベリーを主に作っていらっしゃるのだけれども、非常にゆうやけベリーの特徴として甘くて軟らかい。非常に大きなメリットでありながら、例えば輸送面のデメリットが非常に大きいのだよと。いかに振動を与えずに迅速に輸送するのか、これが本当に大きなポイントだよと。例えば埼玉では完熟率9割で運ぶと。この前関東圏に行ったときにも同じような感想を持ちましたよね。宇都宮なんかに関して。首都圏が近いことはやっぱり大きなメリット。それに比べて福島市は6割、7割の完熟率で輸送に入らなければいけない。これ非常に大きなデメリットであって、その辺の解消というものをいかにやっていくかということが一つブランド化に向けての大きな課題なのだろうと。その中で、片平さんの中でも、そういった課題なんかも解消しながらブランド化を確立する、それがそういったテンプレートができていけば、ゆうやけベリーに限らずともこの福島、そのほかの産品においてもブランド化というものの確立は図っていけるのではないかなんていう話がありまして、まさにそのとおりだなというふうな感じがいたしております。

最後、佐藤さん。まさにスマート農業という感じがしています。露地物、どうしても農業のイメージとして昔から3Kのイメージ、こういった言い方すると失礼なのかもしれないが、イメージとしてそういうイメージが付きまとう。そういったことも含めて担い手の確保というところに大きな課題が残ってきていたところだけれども、その辺を佐藤さんはしっかりと考えながら、着ているものからも気をつけていきたいのだと。自分の子供、そしてその友達もやってみようという気になったのだと。まさにそこだなと。そういったこともしっかり取り入れながら農業のスマート化、そしてスマート農業を行っていく、それもやはり担い手解消策の一つだなというふうに思ったところです。

取りあえず思いついたところはそういったところです。

以上です。

(二階堂利枝委員) ほとんど出ているのですけれども、片平さんがおっしゃっていたみたいに、物流の、今真田さんも言っていたのですけれども、完熟度が福島の場合やっぱりナシでも何でもみんな結構農家さんから言われるのですけれども、何せまだ青いうちに出荷しなければならないというのがおいしいのを首都圏に出せないというので、あまりボルテージが上がらなくなってきてやめてしまうという方もいらっしゃるの、でも都会に、東京のほうに持っていくことって考えると、埼玉とかで考えても多分福島でいったら3時間ぐらいの差で、その3時間をどうやって詰めるかというのがもしかしたら福島市とかそういう行政のレベルで何かできたら、そんなに難しくないのかなとも思うので、

一回いろいろ本気になってその辺、多分農協さんとかでも考えたと思うのですけれども、それがやっぱりできていなかったから、今ナシとかもみんなやっぱりやめている方もいらっしゃるの、本当においしくて、おいしいものを食べてくれる方がたくさんいらっしゃればみんな頑張ってみようって、やっぱりみんな農家の人って喜ぶ顔を見たくて作っているという、本当に大変なときに、暑いときに仕事はしなければならぬし、結構思ったよりも虫に刺されたり大変なので、そういうところでも頑張ろうと思えるのって、そういう人の笑顔を想像したりとか、そういう気持ちの問題だと思うので、そこを福島でもっといろんな人で頭を使って、お金も使うのですけれども、頭も使ってやっていけたら結構もうちょっと福島も面白い感じで進められるのではないかなってざっくり思いました。

**(根本雅昭委員長)** ありがとうございます。

さらに何かありますか。言い残したこととか、ほかの委員の話聞いてこういうこととか、何かございましたら皆さんから。

**(後藤善次委員)** 水を差すような話になってしまうかもしれない。新規就農者とか設備投資に対する助成というの、それを基幹産業である農業であるから、そういうことが助成としてできる。でも、ほかの産業でも同じようなことは苦労しているわけですよ。設備投資であったり、経費の問題であったり。そこをきちんと分けて農業に特化するということの理由づけというのは1つ持っていかなければいけないのかなという気はしました。

以上です。

**(根本雅昭委員長)** ありがとうございます。

さらにございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

**(根本雅昭委員長)** いろいろご意見いただきまして、ありがとうございます。幾つかの時点に分けると、スタート時点と、あと何年か過ぎてやっと出荷できる、場合によっては1年目から出荷できる農業もあると思いますけれども、あとは規模の拡大と、軌道に乗ってしばらくすると担い手の確保の段階と幾つかの段階に分かれると思うのですけれども、スタート時点ではやはり投資というお話が多かったかと思います。もちろんその後も投資は必要でありますけれども、始める前の安心できる投資、行政、JAさんの関わりによって農業を続けていけるという、その投資の重要性というお話あったかと思います。そして、実際に農業をスタートしてからは、近年の物価高、そして環境の変動などもありますので、それに対しての様々なサポートの必要性、そして輸送手段、本当にゆうやけベリーのお話で軟らかく傷みやすいというお話ありましたけれども、こういったところへの何らかのサポート、新しい出荷方法などをいろいろ考えていくべきではないかというお話であったかと思います。そして、軌道に乗ってきて、新たな形の農業としてスマート農業などでその後の農業をやりたい方が増えるのではないかと、そしてブランド化などの検討も必要なのではないかというお話であったかと思います。そして最後に、後継ぎを考える段階では、やはり農業をやりたいという方、今までのそれぞ

れの段階がしっかりしていればこれにつながるのだと思いますけれども、この後継ぎをしっかりと続けていくための様々な支援、そしてやはりスタート時点だけではなく、既存の農家さんへのサポートが、補助金も含めて、当市の補助が少ないのではないかという意見は非常に多かったかと思います。また、今回現地調査した農家さんは比較的軌道に乗られて、夢を持ってしっかりとすばらしい農産物を出荷されている方々でしたので、こういった方々のPRも非常に重要なのではないかというふうに感じた次第でございます。

という意見ということで、後ほど正副手元でまとめさせていただきたいと思いますが、意見の開陳以上でよろしいでしょうか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(根本雅昭委員長) ありがとうございます。

そうしましたら次に、参考人招致についてを議題といたします。

先日の委員会においてご協議いただいた内容を基に、正副委員長手元で参考人招致実施要領案を作成いたしましたので、ご覧いただければと思います。まず、口頭で説明いたしますが、日時が今年の5月15日水曜日の午後1時30分からを予定しております。

場所は、こちら、市役所9階の909会議室となります。

続いて、目的ですが、持続可能な農業の振興に関する調査に資するため。

出席依頼者は、果樹農家の大内徹也氏と美千代氏でございます。

聴取内容、移住農家に必要な支援について、そして女性就農者について、就農の促進についてのお話をお伺いしたいと考えております。

当日の進め方でありまして、参考人の意見開陳を30分、質疑を30分程度行いまして、その後、委員のみで意見開陳を行いたいと考えております。

その他の項目については記載のとおりでございますけれども、説明は以上となりますが、このような内容で参考人招致を進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(村山国子委員) ご夫婦なのですか。

(根本雅昭委員長) そうです。ご一緒にお越しいただけるということでもあります。

(村山国子委員) あと、移住してやっている方なのですか。

(根本雅昭委員長) そうです。

(村山国子委員) ご夫婦で。

(根本雅昭委員長) そうです。

(村山国子委員) どちらから来ていますか。

(根本雅昭委員長) 三重県からということですかね。

それでは、そのように進めさせていただきたいと思います。

最後に、その他に移りますけれども、委員の皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(根本雅昭委員長) なければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午後3時44分 散 会

経済民生常任委員長 根 本 雅 昭